

上諏訪駅周辺 まちなか未来ビジョン 概要版



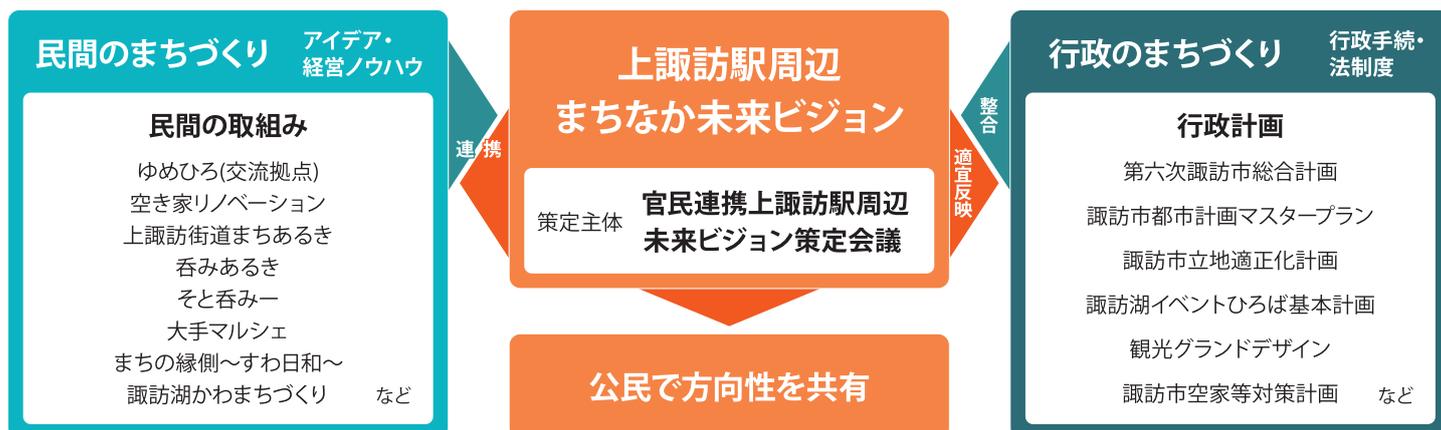
官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議 / 2023(令和5)年3月

公民で共に議論し、目指す目標と必要な取組みを定めるビジョン

10年後の将来イメージを共有し、役割分担と連携体制を示すものとして「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」(以下、「未来ビジョン」)を策定することで、公民が共にまちづくりを進めるための道しるべとします。

公民がまちづくりにおける価値観や目指す姿を共有し、行政と民間がそれぞれの特徴を活かした取組みを行い、その相互の連携を図ることで、効果的にまちづくりを進めていくための指針とします。

作成にあたっては、諏訪市における商業、観光、交通、建築、まちづくり、金融、福祉、子育ての各分野の団体を代表する者、政策アドバイザー、学識経験者、ファシリテーター、市、オブザーバー(UDC信州、UR都市機構)により構成される「官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議」により議論を進めてきました。



諏訪市・上諏訪駅周辺の課題を踏まえた将来像

諏訪市・上諏訪駅周辺の課題

財政・産業

既存資源を活かした産業育成、
交流人口・関係人口の増加

人口など

転入が多い就職期
(20代)の定住化促進

市街地構造

空き家・空地など
既存ストックの活用

防災・安全・安心

安全・安心で回遊しやすい歩行
環境づくりと災害への備え

まちの資源

上諏訪駅周辺の成り立ちを(自然、歴史・文化、産業特性)活かした資源の活用

対象エリアと上諏訪駅周辺の活用したい資源



私たちが大切にしたい上諏訪駅周辺の価値

暮らしの中に溶け込みながら受け継いできた伝統や文化

- 7年に一度の御柱祭
- 年中行事としてのお祭り、花火
- 温泉とともにある暮らしの幸せ

諏訪湖とともにあるゆったりとした日常

- 諏訪湖とともに人の日常があるゆったりとした光景
- 湖上でのレジャー

歴史を感じる都市空間

- 地域独自の歴史をまちの中から感じる心地良さ
- これまでに築き上げてきたまちなみや建物・風景など

人の存在、人とのつながり

- 歴史や伝統を背景にした地域のコミュニティ
- 互いを支えあうことで住みよさをつくる人のつながり
- 誰もが参加できる地域づくり
- 人の中に息づく技術や産業資源
- 商店街の人々の助け合い

とまちづくりのテーマ

私たちが目指す上諏訪駅周辺の将来像



上諏訪駅周辺の魅力・資源を 余すことなく感じることができるまち

暮らしと共に歩みを重ねてきた史跡や建築物、花火や御柱祭などの文化、市の発展を支えてきた製造業、生活を潤し、見守ってきた諏訪湖、まちなかを流れる数々の河川や水路。そして、お互いに支え合うことができる諏訪人。

遊び、憩い、子育て、学び、仕事など、どこで何をしても、これら上諏訪駅周辺の魅力・資源を感じながら豊かな時間を過ごせる、上諏訪で暮らすことを誇りに思える、そんな暮らしの実現を目指します。

また、豊かに暮らす諏訪人の姿やおもてなしが、訪れる人にも魅力となり、諏訪人と交流することで、上諏訪駅周辺をどんどん好きになる、また訪れたいくなる、住みたいくなる、そんなまちとなることを目指します。

上諏訪の魅力・資源を 体感できる暮らしがあるまち

大切に育まれてきた歴史、花火や祭りなどの伝統文化、温泉や路地などの生活文化、諏訪湖や河川などの自然を身近に感じることのできる暮らしを目指します。

魅力・資源の活用が 実感できる空間があるまち

安全に界隈を散策でき、ひとりひとりの時間が快適に過ごせる、自分時間が過ごせる空間づくりを目指します。

上諏訪の魅力・資源を 引き継ぐ仕組みがあるまち

魅力や資源を活用・継承できる仕組み、やりたいコトをサポートする仕組みをつくり、持続可能なまちを目指します。

まちづくりのテーマ

1

上諏訪に今ある資源を
最大限に活かした新たな
価値と暮らしをつくる

このまちならではの資源を生かした
新たな価値と暮らしの創造

温泉や諏訪湖など、上諏訪ならではの資源を活かした新たな価値と暮らしを創造します。

市民が欲しい未来を手にする
ための挑戦の場づくり

市民が自らの力で欲しい未来を手にするため、挑戦できる場をつくと共に、未来をつくっていく担い手の育成に努めます。

2

歩いて楽しめることを
最優先に考えた環境をつくる

界隈の散策を楽しめる
歩行者優先ゾーンの形成

車の危険を気にせず安心して界隈の魅力を楽しめる歩行者優先のゾーンをつくります。

特色あるエリアをつなぐ人に
優しい交通ネットワークの形成

市街地に分散する特色あるエリアや施設をつなぎ、安全・快適にまちを巡れる人に優しい交通ネットワークをつくります。

3

人の動きや活動を
“グランドレベル”で可視化する

“グランドレベル”で行われる
アクティビティの多様化

人の動きや活動がグランドレベル(屋外や建物の1階)で行われ、まちの風景として見えるようにします。

より使われる空間とするための道路や
公園、広場など公共空間のオープン化

誰にでも、手軽に利用できるよう公共空間を市民に開いていきます。

将来像の実現に向けて重点的に実施する4つの

Project 1 遊休不動産の活用による魅力・資源の再生



活用可能な遊休不動産の発掘と流動化の仕組みづくり

- 上諏訪駅周辺の空き家・空き店舗・共同浴場など、歴史的な魅力が感じられる建物の外観や通りの景観を資源として活用できるよう、所有者と使い手のマッチングをするための体制や仕組みをつくります。



空き家や空き店舗の中には特徴的・魅力的な建築物も多い

遊休不動産活用の一体的マネジメントの実施

- 複数の遊休不動産再生を統一された経営の観点で進めるリノベーション事業を行うことにより、持続可能な収益性を確保しつつ、暮らしやすい環境形成、関係人口の拡大などまちの価値向上に必要な機能を導入し、界限として空間の魅力を高めます。

産業振興を主軸とした官民連携による不動産活用

- ものづくり産業の象徴的な場所である諏訪湖イベントひろばは、まちなかに残る唯一の広大な敷地(約7ha)です。
- 「諏訪湖イベントひろば基本計画」(2021/令和3年9月)では、官民連携により、ものづくり(産業振興)、コミュニティ(防災)、観光、医療・健康の4つの分野の導入を目指します。

Project 2 自動車だけに依存しない、移動を楽しむ環境整備



ウォーカブルゾーンの設定

- 上諏訪駅周辺にあり、人が歩いて楽しむことが可能になるポテンシャルを持った空間を、安全・安心に歩け、日々の暮らしを豊かにする「ウォーカブルゾーン」に設定し、既存施設や沿道商店街と連動しながら、自動車通行規制の導入や歩行・滞留空間の整備、駐車場の再配置・集約化を進めます。



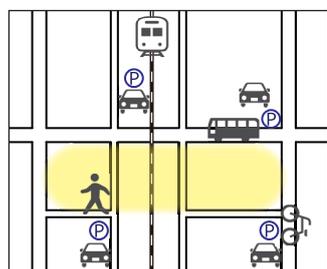
歩行者が安全にまち歩きを楽しめる通り

歩行者中心とする街路の特定とストリートデザイン

- ウォーカブルゾーンの中でも、歩行者を中心とする街路を特定し、より制限された自動車通行規制、歴史などを活かした沿道建物と街路の修景や緑化、道路や沿道空間を活用した休憩・飲食・遊び場の提供などに取り組みます。
- 取組みの推進にあたっては、既存施設や商店街との連携も図り、回遊性の向上や地域経済の活性化につなげていきます。

フリンジパーキングの整備と運営

- 市街地の各エリアに「フリンジパーキング」(自動車を止め、そこから公共交通や徒歩・自転車などで移動するための駐車場)を整備し、バスや自動車などでアクセスしても徒歩や自転車などで回遊しやすい環境を確保し、歩きやすいゾーンの整備と一体となって、回遊環境の向上を図ります。



ウォーカブルゾーンの周辺に、移動手段転換の拠点となるまちなかの駐車場

サイクルシェアシステムなどの導入

- まちなかのスポットを手軽に巡ることができるよう、自転車をシェアしながら利用する仕組みを導入し、また自動車や電車、観光バスなど様々な交通手段で訪れる人にも使いやすく、市街地の各地に利用のためのポートを設置します。

各エリアを連絡する歩行者ネットワークの整備

- 自然や歴史・文化、商業・交流施設などを楽しく、分かりやすく巡るために、歩行者ネットワークの路線を特定し、歩道幅員の確保やユニバーサルデザインに対応した整備、沿道の施設と連携したベンチの設置やトイレ・水飲み場の確保など、まち全体で歩きやすい環境づくりを進めます。

Project 3 公共空間のオープン化と積極的活用の推進



公共空間の利活用をオープン化する空間整備と仕組みづくり

- 並木通りや柳並公園、柳並線や湖畔公園、高島公園、文化センター前の広場など、それぞれに特徴のあるこれらの公共空間を、身近で使いやすい空間として開いていくため、利用に関するガイドラインの整備、利用に係る情報の一元化と分かりやすい情報発信、利用手続きの簡素化、美化などの環境改善、電源や水道・Wifi環境の整備など、利便性の向上を図ります。



地域の絵画教室が公園でライブペインティング

グランドレベルで重要な場所を特定した「場づくり」のマネジメント

- 上諏訪駅周辺に魅力ある風景をつくっていくためには、エリアによって異なる魅力・資源を感じながら豊かな時間を過ごすことができる重要な場所とシーンをイメージし、つくっていくことが重要です。
- その重点的な場所を特定し、それぞれの立地の特色を活かしながら、そのオープン化を進めるため、それぞれの場所に合ったルールやマネジメントのあり方を公民で検討します。



グランドレベルがオープンになり、ガラス張りの建物と外のカフェスペースで外と中がつながる

市民発意による「まちなかトライアル」の実施支援

- エキまちカイギなど、市民が自らの発意で欲しい暮らしを手にするために企画を試す土壌や市民マインドを育てます。
- また、市民の企画を継続的に実施できる仕組みづくりやサポートを公民で行い、社会実験を行いながら、その実施を試せる場や機会を提供します。

まちのエントランス空間整備

- 上諏訪駅は、人々を出迎え、送り出すおもてなしのエントランス・交通の結節点ですが、西口には駅から直接連絡できない状況です。
- 東西の連絡のしやすい駅のあり方の検討、市民の活用を想定した“オープンな公共空間”としての使いやすさに留意した再整備を進めていきます。

Project 4 まちの魅力を発信・継承するプロモーションの実施



諏訪の魅力を継承する仕組みづくり

- 諏訪の文化や風習、人柄を引き継いでいくため、子どもたちが諏訪の魅力や文化を体験する機会を設けることで、一度は諏訪を離れてもまた戻ってきたいと思うマインドを育てます。
- 来街者にまちの魅力と歴史を案内するガイド、プロジェクトを推進する担い手の育成、市民一人ひとりのおもてなしの心の醸成を図ります。

ブランディングの視点からエリアの情報発信

- エリアの特性を際立たせ、価値を向上させるブランディングの視点から、ストーリー性をもって魅力ある人、もの、歴史、技術、場所などを、時代に応じた効果的な技術やコンテンツ、手法により発信していきます。

訪れる人の立場から考えたまちのサインの見直し

- 誰にでもわかりやすく魅力や歴史・資源を伝えられるよう、サインのデザインや内容、鮮度が必要な情報はその更新方法、歩行者ネットワークを踏まえた配置などを見直していきます。
- 特に上諏訪駅周辺の資源となるものに対する関心や興味を高めることができるよう、QRコードによる詳しい情報の提供などに留意します。

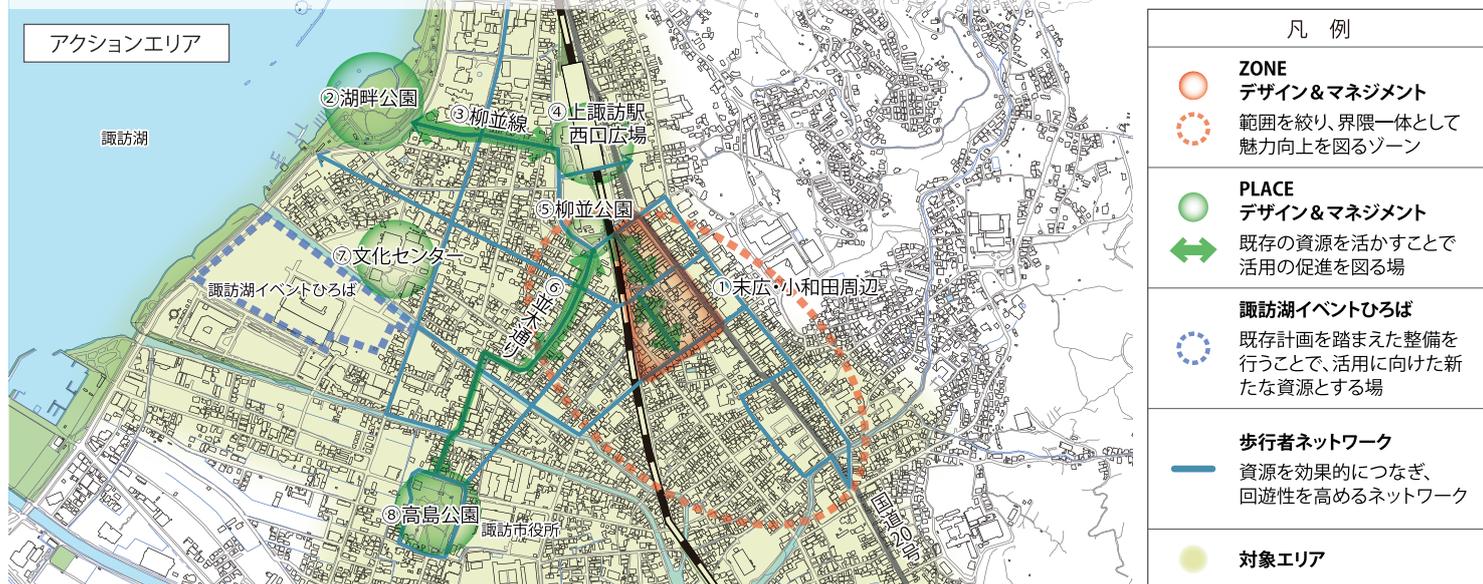


まちなみに調和するサインや照明デザイン

将来像の実現に向けて重点的に実施する4つの

境界一体で魅力向上を体感できる“ZONE” 既存の資源を活かし活用を促進する“PLACE”

この2種類のアクションエリアで、デザインとマネジメントに取り組みます



② 湖畔公園 諏訪湖を活かした多様な利活用ができるデザインとマネジメント

湖畔公園は、スポーツや遊び、アート、イベント、ワーケーションなど、多様な活動ができるルールやマネジメントを検討します。

③ 柳並線 多様なモビリティ利用と空間活用が共存できるデザインとマネジメント

湖畔公園と西口駅前広場をつなぐ空間として、多様なモビリティによる利用とイベントなどによる空間活用が共存できる、新しい道路のマネジメントを検討します。



柳並線と連動しながら、湖上や湖畔では、カヌーや水陸両用バス、マルシェやイベント、サイクリングなど、様々なアクティビティとモビリティを楽しめる場を創出

④ 上諏訪駅西口広場 まちのエントランス空間として、市民や来街者など、すべての人が便利に楽しく、快適に利用できるデザインとマネジメント

まちのエントランス空間として、市民や来街者、全ての人々が便利に楽しく、快適に利用できるデザインとマネジメントを検討します。



多様な人やモビリティの結節点となるまちのエントランス空間として、日常利用からイベント利用まで様々な使い方が可能な場を創出

①

末広・
小和田周辺

リノベーションによる まちなみのデザインとブランド化

歴史的な建物なども多く見られる一方、空き家も増えつつあるゾーンでは、建物を資源として活かし新たな機能、空間として再生するリノベーションを推進します。

ウォーカブルゾーンとストリートデザインによる 歩いて楽しいまちなかへ

商店街などが集積する末広町周辺では、適切な自動車の交通規制と制御、魅力的な空間の創出、沿道の店舗などと連携した心地良い居場所づくりをデザイン&マネジメントとして進め、ウォーカブルゾーンを形成します。



建物をリノベーションした店舗や空き地を活用した滞留空間などで、楽しさや懐かしさを感じながら歩ける界隈を創出

⑤

柳並公園

憩いや交流・遊びの場 日常から親しまれるデザインとマネジメント

商店街や並木通りとつながる柳並公園では、憩いや交流・遊びの場として、日常から親しまれるデザインとマネジメントを検討します。

⑥

並木通り

ケヤキ並木を活かした ストリートデザインとマネジメント

四季や歴史を感じられるケヤキ並木を活かし、沿道の商店街などと連携しながら居心地のいい空間のデザインとマネジメントを検討します。



柳並公園と並木通りでは、沿道の飲食店などと連携し、それぞれの場の特性を活かしながら、遊びや休憩、オープンカフェや滞留の場を一体的に創出

⑦

文化センター
周辺

文化や学びを楽しむ空間の デザインとマネジメント

周辺の施設の特徴を活かし、文化的な活動や学び、遊びの場としてのデザインやマネジメントを検討します。

⑧

高島公園
周辺

市民にも来街者にも愛され、活用される ランドマークとなるデザインとマネジメント

高島公園では、歴史を活かしながら日常的な活用からイベントまで、多様な使い方ができるデザインやマネジメントを検討します。

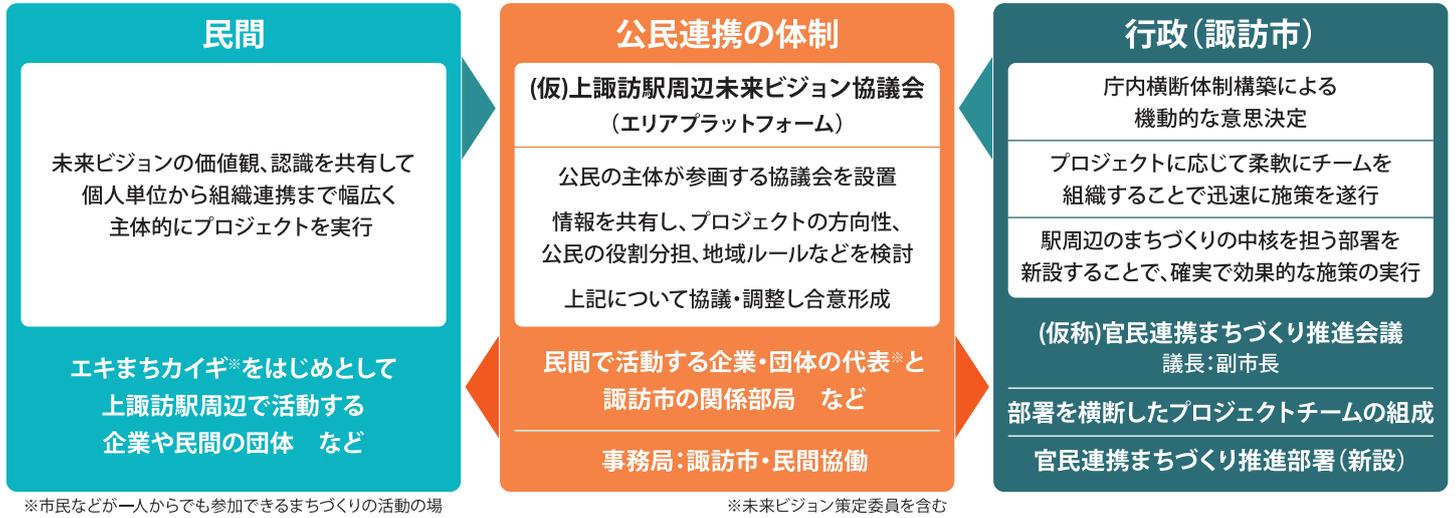


文化センター前の芝生の空間では隣接した公共施設と連携し、子どもの遊び場や読書会の会場など、のんびりと穏やかな活用が可能な場を創出

未来ビジョンの推進に向けた公民の体制とロードマップ

公民の体制

ビジョンの実現と推進に向けて、
公と民をつなぐ連携体制（エアプラットフォーム）を構築



ロードマップ

時間軸と目標を意識して、できることから順次取組みを実施
プロジェクトの公正な評価と適正な執行管理によるマネジメント

	方向性や枠組みの検討と試行 (R5～R7年度)	3年後	事業化に向けた検討と検証 (R8～R9年度)	5年後	事業実施と持続的運営へ (R10～R14年度)	10年後
Project 推進	エアプラットフォーム・庁内体制の構築、プロジェクト執行管理					
民 公	設立準備	エアプラットフォームの設立	適宜改変	持続的運営へ		
公	庁内体制準備	庁内体制構築、予算化				
民 公	未来ビジョン周知 PJ評価方法検討	PJ(プロジェクト)の評価、執行管理				
Project 1	遊休不動産の活用による魅力・資源の再生					
民 公	・空き家情報の収集・マッチングの仕組みづくり		・複数の遊休不動産の一体的マネジメント、持続的な不動産の流動化と再生			
公	・イベントひろばなどの整備に向けた検討		・イベントひろば等の設計・施工		・イベントひろば等の再生	
Project 2	自動車だけに依存しない、移動を楽しむ環境整備					
民 公	・ウォークブルゾーン設定、サイクルシェアシステムなどの検討		・交通規制・道路利活用に関する合意形成		・ゾーン・ストリートの整備、フリッジパーキング整備、	
	・場の使い方・過ごし方を試す社会実験		・ルール作りや整備に向けた社会実験と検討		サイクルシェアシステム運営	
Project 3	公共空間のオープン化と積極的活用の推進					
民 公	・オープン化の仕組み・体制・ルールの検討		・オープン化の運用試行と検証		・取組みの自立・継続化へ	
	・場の使い方・過ごし方を試す社会実験		・体制・ルールの改善に向けた社会実験			
民 公	・まちのエントランス空間のあり方検討		・まちのエントランス空間の整備		・まちのエントランス空間の利活用	
	・駅西口のあり方を考える社会実験		・駅西口整備に向けた社会実験、利活用に向けた社会			
Project 4	まちの魅力を発信・継承するプロモーションの実施					
民 公	・効果的な情報発信の検討、連携体制構築		・SNS・テレビ・新聞など、様々なメディアや技術・コンテンツを活用した情報発信			
民 公	・サインに関するガイドラインの検討		・アクションエリア、歩行者ネットワーク上のサインの整備			

※本ロードマップは、策定時の目標として設定したものであり、今後の検討や社会実験の結果を踏まえ、変更することがあります。

策定：官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議 2023(令和5)年3月

未来ビジョンHP：<https://www.city.suwa.lg.jp/soshiki/21/54477.html>

